



全国的なあこがれの地になった北野町

## ●神戸新景散策

# 北野坂から海市へ

ポートアイランド

林田 重五郎 (新聞記者)

カメラ / 緒方 しげを

□北野町はにぎわい続き

まず最もビックリしたのは、本誌の小泉副編集長の次の言葉だった。

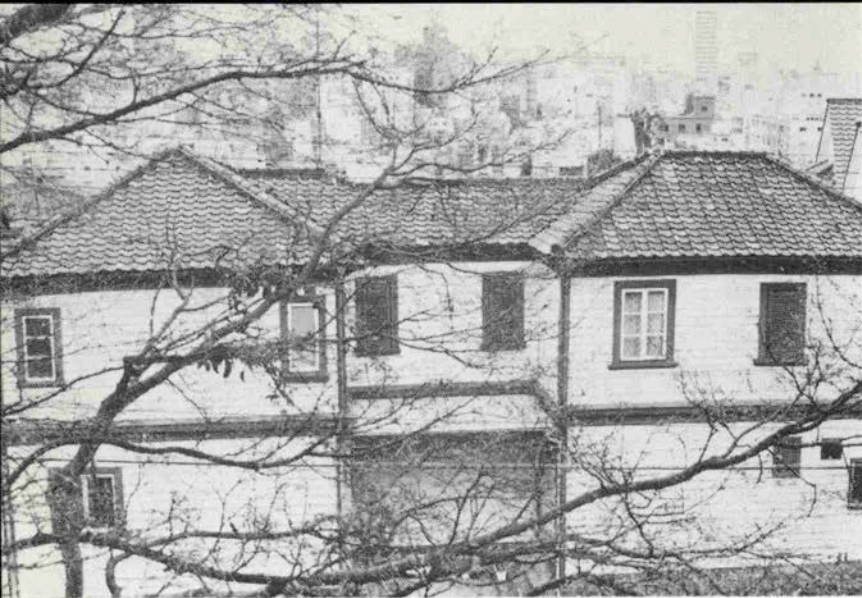
「ポートピアが終わった後も、北野町を訪れる人数は減ってはいないんですよ。」

NHKの「風見鶏」でにぎわい、ポートピアで

わき立った後は、常識からいうとやって来る人の数も減っているだろうと、勝手に決めていただけにホーと感嘆した。

北野町で店を開いている菊地吉弘さんが

「全くその通り、人数は変わりませんね。うちは駐車場も経営しているので、車の方は博覧会の最中に比べ、昨年十二月などほんの少し減ってい



NHKの風見鶏で一躍ブームに。北野町の異人館。

るのがわかったのですが、人の数は増えているの  
ではないでしょうか。」

との話。えらいことだ。

「年間を通じて見ると、三月、五月、八月に十月  
が人が多い。春と夏の休みは特に東京からの旅  
行者が多く、グループが標準語で話すのですぐわ  
かります。女性が多いですね。それから日曜と祭  
日は大阪、京都、岡山の人が目立ちます。ウイ  
ク・デーは阪神間や地元の人々……。」

なぜ北野町がこんなに全国的なあこがれの地に  
なったのだろうか。

「異人館ブーム、そしてNHKの風見鶏でしょ  
う。特に日本中で神戸の人氣が高まり、神戸、北  
野町は一生の間に一度はゆきたい町になって来た  
ようです。」

つまり日本の新名所として定着しつつあるらし  
い。京都の嵐山、奈良の大仏さんといった旧名所  
に劣らない魅力を北野町が備えて来たというわけ  
で、これだと博覧会の有無にかかわらず来訪者の  
数は変わらない。

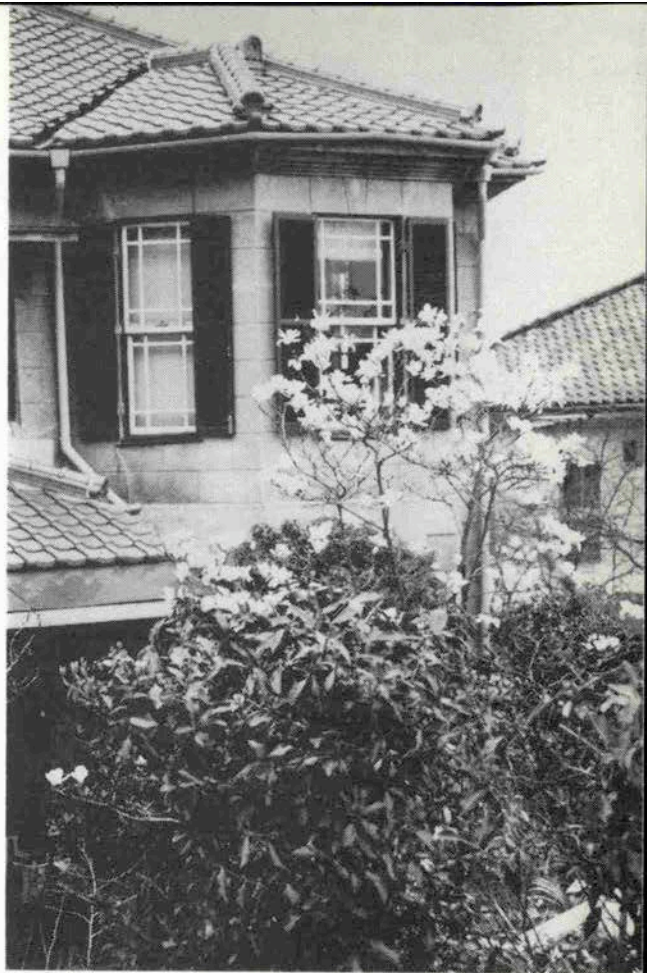
全くすばらしいことではある。

#### □六年間で大変容

副編集長と北野坂をあがって「えらい変わりま  
したナ」と大声を出した。三、四年ぶりだが大変  
な変化である。

新聞のコラムに「異人館の秋」の題で北野町を  
取り上げてから満二十年になる。テーマは異人館  
が木造であるために寿命が終わり始めなんとかし  
なければならなくなった。有名な建物は市や県の  
中で、一、二移築保存されるが、多くは姿を消し  
てビルなどに建て変えられる。今異人館は夕陽と  
同じ、消えゆく前の美しさに溢れている。北野町  
を訪ねるなら今だ——という趣旨だった。

そうして自らも歩き回ったものである。写真  
もとったり、小路から小路へとうろついたり、異  
人館を一むね、一むねたらずでながめたり。当  
時の北野町のトーンは薄い緑色のペンキが色あせ  
て黄色から灰色になり、住宅地としてしっとり  
とした色調で落ちついてはいたものの、地味だっ  
た。小路ではくずれた門柱に、この色のとびらが



神戸は市民みんなが「わたしの好きな散歩道」を持っている町である。

「経営者は若い方が多いんですよ。いまファッションの店、レストランなどを主に約一五〇軒になっていましょう。スペイン料理、インド料理……と各国の専門料理店もありますよ。」

ついこの間までは料理店はほとんどなかった。喫茶店すらなかった。

一時期、十数年前にピンクのホテルがあちこちで建てられた。ところが現在の町の姿に押されてホテルからファッション・ビルへの衣替えも見られるようになったという。町をおおう空気の力というものは大きなものと改めて感ずる。

各国人が住む昔からの町の形、その上に商店群が要所に増えてゆく姿。連らなつた商店街ではない、住宅地のなかのブティック群だが、静かな空気は活力あふれるものに一変した。

「開発に手をつけたのは民間です。それを見て行政が入って異人館の特定のを保存観覧に供する。NHKのドラマの力も加わる。一つの町が活気にあふれる……かわつたケースです。」と菊地さん。

立てかけられていたりして寂しさを身にしみて味わつたものである。

ところがいま北野坂と異人館通りの角に立つて、ながめた町の色はどうだ。レンガ色の赤が主調になつたファッションビルがこの十字路をはじめ、あちらにもこちらにも見えるではないか。無風流な背の高いビルではなく、せいぜい三階くらい、こりにこつた建て方である。新しい北野町の気分マッチしている。

「約六年前からこの新しい建てものが増えて来んです。短期間で町が変わりつつあります。」

菊地さんの言葉は続く。薄緑色の町の主色が、四つ角から赤く変わって、新しい色がドンドン広がってゆく。来るたびに町が変わると驚きの声が北野町マニアから出るほどのスピードである。

小泉副編集長が加える――。

## □クリーン作戦と新・異人館

観光客が増え、商店群が多くなりゴミもたまって来る。

「そこで北野町をキレイにしようという話になり、月一回第二日曜の十時から一時間、クリーン作戦を展開、みんないっしょになってゴミ集めをやっていきます。このごろではゴミも少なくなりまして……」

商店街ではない。住宅のなかの商店、いっしょになっての作戦。商店側の菊地さんのうれしそうな顔。

「北野町に長年住んで来られた熟年の方々とコミニケーションの機会があります。どうもさわがしい町に変わりました……というと、いやにぎやかになって喜んでいきますとの御言葉もあり、さすがに北野町の方と開放的なお考えに感激しています。」

商店と住民、住民の中で昔ながらに多い外人、つきあいも無理をせず自然にということらしい。「地球人の気持というところでしょうか」と小泉さん。神戸の神戸らしいところである。

北野坂をさらに上って東側に土べい風の囲いをめぐらせた大きな屋敷。以前は異人館がまん中に建っていたであろう。そのあとに建て替えられた新しい異人館が見える。従来の異人館とは感じがちがうので素人のわたしにも、改修したものではないことがわかる。いわば新・異人館というところ。

アーリー・アメリカン・スタイルというのだと菊地さんに教えてもらった。早期米国調である。

有名な幼児のファッション店が喫茶店として新築したもの、大げさにいうと北野町異人館に新しい歴史が加わった。ここでお茶を飲んだが、庭に小屋がある。商品の衣類がぶらさげて販売されている。屋敷の中の喫茶店に付属した山小屋風の衣料品店、全く思いつきの面白さに敬服する。

何年か経ったあと、この新・異人館は第二期異人館と呼ばれることになろうか。

ポトアイランド南限「南公園」のシンボル  
アメリカ丸スクリーン噴水





ポートライナーから眺める港の風景

### □町中がみんな散歩道

異人館通りを西へ向って歩いた。平日なのに人通りが多い。若人が大部分で、山登りのリュックと散歩している姿もある。ファッションビルの窓から中をのぞくと、好みの衣料を体に合わせて考えている若人の顔が見える。散歩しながらのショッピング、生活の様式としては最も楽しい時間であらう。

気がつけば、つい近年まで歩道のなかったこの通りに、見事な歩道が両側に作られている。それも自然の切り石を花模様並べた立派なもの、北野町にふさわしい。車道はそれだけ狭くなったか

わりに、一方交通にして流れをよくし、歩行者は安心して散歩できる。昔のように車歩道の区別なし、アスファルトべったりでは、異人館にながめ入るのも、身の危険に用心しながら、という始末だった。こんな行政の参画は全く有り難い。

トア・ロードへ出て坂を下る。この歩道もいま四角い切り石のたたまみに変えられつつあった。石だたみの歩道になれば散歩の味が違って来る。これも「好」行政だ。

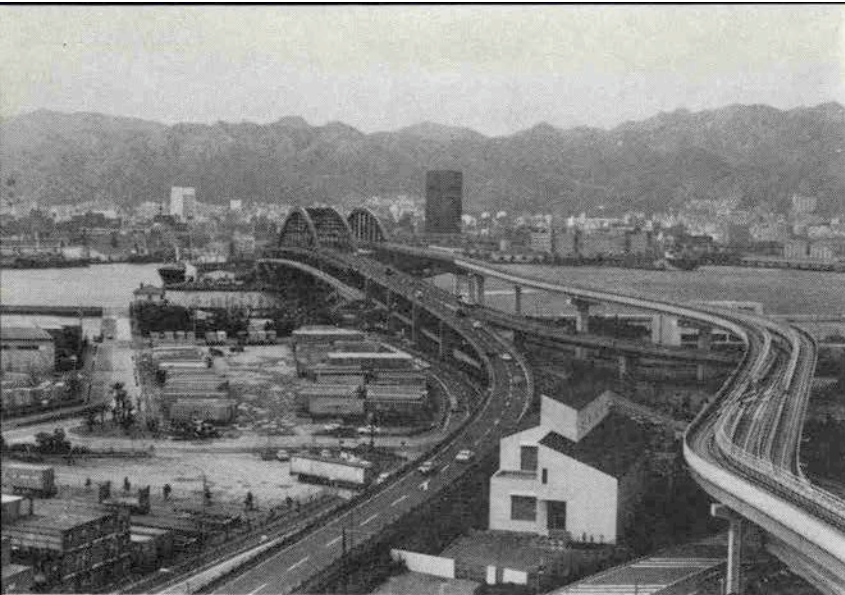
神戸の良さについて考えたことがある。その一つは町中いたるところに良い散歩道があるということだ。他の大都市ではそうはゆかない。散歩道の建設に巨費を投じているほどである。

神戸はそうではない、市民みんなが「わたしの好きな散歩道」を自宅の近くで持てる町である。持っている町である。

例えば元町、ショッピングつき散歩道。毎日曜ここを歩く知人がいるが、自転車の心配のない、

4月に開かれたコンテナ・バース。赤いクレーンの巨大さに驚く

こんな気楽な商店街はよそにはない。その裏栄町、昔のは市電と市電の敷石とで歩道もなく、味気ないビジネス街だったがいまは幅広い歩道にア



海市から、神戸を望む。六甲の山並みの緑が街を彩る

ベリアが連なり散歩道としても一級になった。  
こんな調子で神戸を探すと、北はもちろん、東でも西でも絶好の散歩道がすぐ見つかる。体の調子で、南北の坂道を下ってもよければ上ってもよいし、東西の散歩道を選んでよい。うれしい神戸である。

そして北野町がいまこの散歩道の粹として加わった。観光をしながら散歩の楽しさを旅行者たちは自然に味わって帰るのである。北野町ブームが長続きする秘密の一つはこんなところにもあるうか。(定着して、いまはブームと呼ぶべきではないが……)

#### □グリーンのプロムナード

「六甲山の緑をフラワーロードを通じてポートアイランドへつなげるもの」、「山から海へのグリーン・プロムナード」、「ポートアイランドの公園は北、中、緑地軸、そして南公園と続いています」と市のパンフレットの文句にある。雄大な散歩道である。北から南へ下がってみることにする。

フラワーロード、彫刻が並んでいる。中央の分離帯の緑地は、神戸祭りのときは取り除かれ、道幅いっぱい踊りの群が広がる。

ポートアイランドへ渡って、まず北公園。ここは北野町から移築されたミナトの異人館が印象的だ。異人館も移された場所によつては、も一つピツタリ来ない感じのものもあるが、この異人館でお茶を飲みながら船の来往をながめるのは楽しい。特に神戸大橋の雄大な赤色は見あきがこない。

島の中央を南北に貫く緑地軸、この緑の分離帯も、行事があるときはパツと移せることになっている。道の幅をすく広くできる発想には感心する。なかほどに中公園、そして島の南限が今年三月十七日に開園したばかりの「南公園」である。港湾局の滝本さんに説明をしてもらった。島の三公園は公園課ではなく、港湾局の管理である。

小泉さん——「ずいぶん広いですね。東遊園地より広いのじゃないですか。」

滝本さん——「広いですな。(八二九〇〇平方メートル) 熟年の方に散策、中年の方にいい、子供たちに遊びの場を供します。」



コンベンション・センターの核（神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展示場）

小泉さん——「盛り土をして展望をよくしてある。お金がかかったでしょうね。アベックがたくさん南の海のながめを楽しんでいる。新名所になりますね。」

滝本さん——「盛り土の高さは一二メートルです。七年の歳月と四四億円をかけました。噴水にはコンテナー第一船アメリカ丸のスクリュウの寄贈を受け、樹水型と粉霧型の噴水がコンピューターで二五分おきに一〇のパターンで虹を描きます。実地に試植して調べた潮に強い植木を植えています。高木はクスノキ、ヤマモモ、エノキ、アキニレなど一八六〇〇本、低木はトベラ、シャリンバイ、ヒラドツツジ、ハマヒサカキなど四九

四〇〇本。」

神戸らしい、いや神戸だからこそ生まれた海の公園である。緑のプロムナードの終点にふさわしい。

#### □コンベンション・センター

神戸国際交流協会の常務理事多田栄治さんに会って、再び大いにビックリした。ポートピアとともにこの協会の国際会議場や展示場が活動を開始した。外人参加の催しもたくさん開かれた。博覧会が終わると、その活動も縮少しているのではなからうか、というのが事情を知らぬわれわれの常識である。

ところがそうではなくて、いよいよ忙しくなってきた。三月十七日現在で会議場は予約の手持ちが二三〇件、うち国際的なのが一九件、展示場は予約一〇一件である。

「港を拡充してコンテナー埠頭を作るためにポートアイランドが生まれた。まん中の広場をどうするか。北半分は住宅、南はインターナショナル・スクエアを主にすることになり、われわれの組織ができたが、会議場、それに展示場、そしてホテルが近くに共存するという理想通りの形ができた。」  
「そして例えば先般の全国の歯科医師会の千六百人の会議のときは、展示場で歯科の医療機具が展示され、多額の売り上げがあり会としても見事な成功ぶりだった。いまの使用率は会議場五〇％、展示場六〇％というところ……。」

会議場を案内してもらおう。想像以上に立派な建物であり設備である。大会議場は七〇〇席の赤いイスが美しい。六カ国の同時通訳の施設もある。

小、中の会議室も便利にそろっている。

年次総会など大切な会議をコンベンションといふのだそうだが、神戸のこの場所にコンベンション・センターが活動していることは、土地がらに全くふさわしい。

### □ポートピアホテルの社長さん

コンベンション・センターになくはならぬホテルの社長さん、神戸ポートピアホテル中内力さんは度々アメリカを見て回わり、昨年も神戸の経済使節団の一員でアナハイム・コンベンション・センターなど視察した。お話をしてみよう。

「ポートピアが始まったとき、ホテルは九月の会期末まで予約満員という盛況、しかし博覧会が終わるとそうはゆかぬ。お客は待ち受けるだけでなく、来てもらう。目的を作らねばならぬ。例えばコンベンション・センター、すでに核ができ

ただのだから、これに新施設を付加して日本一になれば大いにぎわう…。」

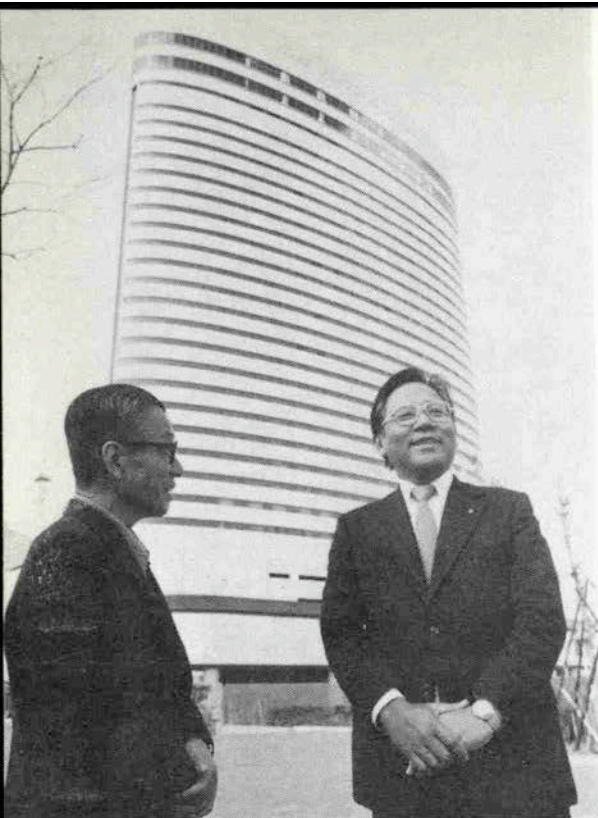
「このセンターに適するところは、まず足、それから明るさ、清潔、安全といったイメージ、そして環境。ここはこれらイメージと環境の条件を十分満たしているからあとは施設の拡充だ。ワールド記念アリーナという屋根つき競技場が五十五億で建設と決まったが、さらに交流のためには二五〇〇人収容の劇場がほしい。コンベンションの経済単位は、参加料が五万円では高過ぎ、二、三万円が適当なところから一五〇〇人といわれているからだ。」

「アナハイムはハワイ、アラスカを除く米各州から空路二時間でゆけ、しかも会議場まで空港から二十分という便利さ、展示会場もわれわれの十倍の広さで、大いに利用され、五千億円という大産業になっている…。」

未来の展望は明るいようだ。

ホテルの東側、博覧会場跡はファッションタウンなどに区画され、有名店が新設のプランに頭をひねっている最中。やがて楽しいショッピング街になろう。

四月一日から開かれた南埠頭の10、11、12のコンテナ・パース、赤いクレーンの巨大さに驚くが、南側の防波堤との間の真っ直線の道にはうなづいた。滑走路のように、東へ真一文字の千数百メートル、神戸の未来を見るようなこの道の入口、ポートピアランドの東南角に、是非立って遠望されることを！



明るい未来の展望を語る神戸ポートピアホテル中内力社長(右)と筆者



# 神戸・北野は

# 界隈の楽しめる町

△座談会出席者▽

三浦 明定△クインズコート、キングスコート、英国館オーナー▽  
若山 晴洋△ローズガーデン(有)代表取締役▽  
菊地 吉弘△(株)ベアーズ代表取締役▽  
大村 幸一△セントジョージ・ジャパン社長▽  
武内 重幸△柳ファミリア営業開発部次長▽

地元の固定客を大切にしないといけない

三浦 私がキングスコートをオープンしたのが一九七六年なんです、その当時は北野を本格的なファッショントアウンにしようなどという大それた(笑)構想ではなくて、あくまで三浦個人で、情緒のある住居空間だった北野町に店をもちたいということで始めたんです。本格的なファッショントアウンへの仕掛けをやってくれたのはローズガーデンだと思うんです。これが七七年春。その年の秋に北野アレー、さらに翌年に異人館倶楽部がオープンしています。当初あったのはいわゆる日常生活型の店が二十七店舗だけ。それが五年後の今は、一四九店舗です。これは驚異的な増え方ですね。一九七五、六年頃には、子供の遊びやで(笑)と言われていたのが、今や子供の遊びではいかにようになつて来た。異人館の入館者も今年は八十万人を越えるのじゃないかといわれています。そうなると百何十万の観光客相手の商売も出て来ています。それとは別に、この町のファッショナルな情緒

飯田 徹△ファミリア北野坂ハウス店長▽

東郷 武久△サムホール・オーナー▽

山岸 直幸△イストワール、スタジオV・オーナー▽

植木 督△神戸コレクション・パソナルプロダクチャー▽

藏本 和憲△VAN&KENT SHOP店長▽

大里最世子△ブティック魔女オーナー▽

空間を高く評価され、ファッショナル都市神戸の担い手として地道に仕事をしておられる方々もいます。大局的に分けるとそういう二つの動きが商業上にあるように思えます。それとは別に文化活動もいろいろあるし、行政側からも予算づけなどのアプローチがあります。そういうことから北野は将来とも楽しめる町だと、私は客観的に思っています。いい店づくりはいい町づくりという原点に立ってやって来たことが、この町を発展させて来た。みなさんの力でここまで盛り上げて来られたと思います。

東郷 僕は昔からこの界隈が好きだったんです。キングスコートが出来たときにも面白いなと思っていました。しばらくしたらローズガーデンのプロジェクトが進んでいると知って、ぜひ参加したいと思ったのですが、私としては、ローズガーデンという名前から来るイメージショップを展開しようとして、バラを売出すことにしたんです。自分がバラだと思ふものを売りたいということ、それから生産者を口説きにかかったわけですが、紫や茶色のバラを扱っているのですが、こういうのは今

北野は若い町だ。若い力が界わいをつくる。わが町を語るとき、自然と熱っぽくなる。次の飛躍のために、みんなが知恵を出し合い、意見をのべ合う。北野は常に運動する……



武内 重幸さん



大村 幸一さん



菊地 吉弘さん



若山 晴洋さん



三浦 明定さん

まではバラの色じゃなかったんですね。それがローズガーデンは、ブティックがたくさんあって色彩感覚が秀れているところですので、ああいう色のバラをつくってしまって、結局、それがセールスポイントとなってしまったんです。

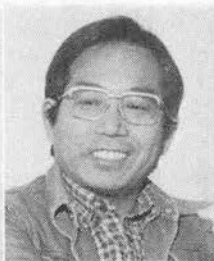
菊地 最近感じますのは、お客さんの層が非常に幅広くなっている。的が絞れないほどいろんなお客さんが来ます。北野界わいは、あくまでも地元のお客さん―固定客と、外からのお客さん―観光客と両方とで成り立っているという現実を大切にしないとイケませんね。だからこそ面白い町づくりができる。観光客専用の北野界わいであって面白くない。観光地であって、商業地であって、また、住宅地であるというポリシーを曲げずにやって行く方が成功するのじゃないかと、僕は思いますね。

植木 私は北野アレーに店を出して四年半になるのですが、やはり、だんだんと客層が変わって来ていますね。最初は外国から持ち帰った舶来品だけを扱っていたのが、観光客が多いから少し土産もの的なこともやり出した。最初は当たったのですが、ポトピア<sup>®</sup>をめざして土産ものの専門店がズラッとできましたので(笑)、今や商品構成をちよっと変えないといけないところなんです。四年ぐらい前はアンノン族、若い女性が多かったけれど、そのうちアベックが増えて、この頃は男性が増えて(笑)来ていますね。ということは男性向けの店が増えているんです。そういう客層の流れにも対応しないといけない。

蔵本 私自身は北野というと十年ぐらい前しか知らなくて、雑誌などで読んでいたんですが、情報的にはまったく白紙だったんです。オープンして半年ですが、こんなに女性が多い町だとは(笑)知らなかったんです。メンズ一本で北野へ来たのですが、最終的に女性にもアプローチする商品構成や雰囲気づくりをやらなはいけないのかなとも思っているところなんです。ヴァンの方は、旅行者の方でもふらっと入って来て買って行かれる



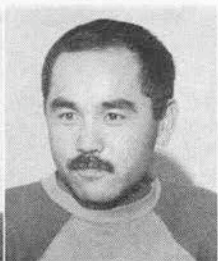
飯田 徹さん



東郷 武久さん



山岸 直幸さん



植木 督さん



蔵本 和憲さん



大里 最世子さん

商品もありますから、それはそれでいいのですが、隣のケントとなると、女性にはほぼ完全にクロージングです。半年で一番苦しんだのは、どうやってスーツを売るかということですね。町にそういう雰囲気がない。ブレザーまでは行くのですが、スーツはビジネスライクなものですから、今後は地元を中心に着々と固定客をつくって行って、じっくりと買い物をしていただけるような店になりたいと思っています。

山岸 僕は北野アレーで店をやっていますが、始める前には北野町は高級だという面しか知っていませんでした。すね。一番小さなスペースで喫茶店を始めたのですが、オープンと同時に風見鶏ブームとなりまして、思ったよりもお客さんが来られるんですね。従来からほかの所で喫茶店をやっていたのですが、どちらかというと北野の方が将来性があるということで、一年後に広げました。

今のシーズン、春休み、ゴールデンウィーク、夏休みなどはまったく観光地になるのですが、それ以外のときにはやはり地元のお客さまに来ていただきたい。ところが、地元の方には北野町についてどうも先入観があるんですね、ちよつと行きにくいと。しかし全然そういうことはない。それで同じビルに、スタジオVというブティックをオープンしたんです。これは観光客は全然対象にならない。地元で固定客をつくることに力を入れないと成り立たない店です。だから私の場合は、観光客も相手にするけれど、地元の方も大切にするという考えでやっています。

### 北野は町全体が楽しめる

若山 観光客がすごいというお話が出ておりますが、この町での今後の商業を考えると、欠乏充足型の小売業から完全に提案型の小売り業へということが、一つの明白な結論として出て来ると思います。この町の特質は、既存のマーケティング理論では当てはまらない。自分なりのマーケティング理論をもっていただいて、それを商売

上のポリシーにさせていただく。そして一歩一歩積み重ねをして行って商業を通じてますすいい町になって行けばいいと思っています。商売人だからといって単に銭勘定をやっておれば儲かるという時代ではないと思いますので、何かこう遊びに終ってもいいから、自分のテーストを大切に、商売を楽しむというか、生活を楽しむのと同じように商売を楽しみながらやっていると、案外新しい道が開けるのじゃないかという気がしますね。

大村 私のところは、もう九年になりますね。当初は、北野クラブさん以外は何もなくて、お客さんに北野まで上ってもらうのに一苦労しましたね。その頃は夜だけの営業だったのですが、風見鶏ブーム以降、いろんな店もできて来ましたので、これは昼間もやらないといけないと思ってやり出したんです。うちの宣伝をするわけではないのですが(笑)、夜は会員制なんです。昼間を開けることによって観光客というか、アンノン族が最初は多かった。だけど最近になりますと、中年の方や若い方がオシャレをしてこのへんを散歩しておられ、そのついでにお茶でも飲もうかという雰囲気が出て来ましたね。これからもみなさんと一緒に北野を楽しい町に行きたいですね。

大里 私は異人館倶楽部で四年ですね。昔から北野が好きだったんです。北野でボソボソできたらええわ(笑)という感じが入ったんです。この四年間にはいろんな曲折がありますが、若山さんがおっしゃったように自分なりのマーケティングのポリシーが、今やっとならまっちゃったんです。それは自分もやりながらお客さまに育てられたという感じなんです。今、レースの手づくりのブラウスが評判なんです。いろんな服をデザインしている服をつくっています。『魔女の白いブラウス』というものが、東京、大阪、京都、名古屋、さらに徳島あたりからも注文があるんですよ。そういう話が広がって来ているので、自分はそこに夢をこめて絞り込んで行くという道が、やっとならまっちゃったんです。そういうこ

とで神戸フアッシュンという一人で頑張っているのですが、大きな東京メーカーももちろん町のイメージにとってはいいことなんです、私のようなこちとちとやっているオリジナリティをつくるデザイナターの店がもつと出来て来れば、もうちよつと北野のイメージというか、北野に対する価値観が違ってくると思うんです。

武内 ファミリア北野坂ハウスは、この四月二十九日で丸一年になります。日本のどこを捜しても、北野にあるこういうムード、空気がおいしくて、四季折々の花を見ながら落ち着いてお茶が飲めるところはありませんね。観光客も多いけれど、統計上は地元の方がやはり多い。そういう方が、この界わいへ来て何か印象に残って、また行きたいなというムードが一番必要だと思う。

こういう空気のいい自然のなかで、確かに異人館というものにはありますが、それ以外に何か、たとえば千葉にデズニールランドができるように、自然のムードをこわさないもの、神戸にしかないものが欲しいですね。もう一回行きたいなと地元の人がまず思うような町にできれば、神戸市でも一番有望な町だなと感じています。

飯田 実際に北野で働いてみて、よく分ったのですが、こういう形態の観光地は他にはないんです。他だとたとえば温泉とか鐘乳洞とか、何か名物があって観光地になっているのですが、北野は、なるほど異人館ということでは風見鶏ブームで脚光を浴びましたが、それよりも、都心に一番近いにも関わらず、まったく雰囲気が違うプレイズンだということが魅力なんです。ここへ来ると朝から晩まで時間がつぶせる。食事、ショッピング、喫茶、夜も飲食ができます。ですから、これからはやはり地元の固定客をガッチリとつかまえて、なおかつシーズンには観光客にも来てもらおう。その観光客の方にも何かニュータイプゾーンがあるということを知ってもらうために、しよつちゅう催しをする。イベントを打ってお客さまの眼をいつも北野に引っ張っておく、ということが必要だと思う。本当に都市のなかでこれだけの環境が

あるのはほかにはないと思いますね。

三浦 最近の調査によると北野町の観光は少し変わって来ているようです。最近では都市観光型になって来ているのじゃないか。観光都市と都市観光というのは全然違うんです。都市観光というのは、町全体が観光になっているんですが、プロの分析によると北野町はどうやらこれにはまって来ているのじゃないかということ。つまり、界わいが非常に面白いというのですかね。美術館が一つだけあって、そこだけに行くというのじゃなくて、北野ではいろんなアクションが起こせる。

五月に「KAM(カム)」がスタート

三浦 先に通産省と神戸市と神戸商工会議所が北野で調査したアンケートのなかで、団体をつくって欲しいという声が七五パーセントもあった。それで行政の方から早く組織をつくって欲しいという呼び掛けがあり、それならというので準備にかかっています。「北野商業連合」という仮称ですが、英訳にすると「KITANO ASSOCIATED MERCHANTS」、略称「KAM(カム)」。「いらっしやい」ということです(笑)。五月ぐらいに総会を開きたいと思っています。そういうムードは盛り上っておりまして、クリスマスのイベントのときも八十八軒が参加され、かなり大きな動きをしています。

若山 ローズガーデンで毎年秋にやっている美術展も五回になりました。また、公募展をやることによって、テナント同士の輪というものも確かにできましたね。やはり行政主導ではなくて、何か面白いことができるのは民間主導型、町なかから出て来たからですね。

東郷 若山さんが最初におっしゃったように、美術公募展は商売を離れた無駄の部分というか、遊びの要素があって、結構自分たちで楽しんでいっているのです。ライブワークで自分たちが楽しんでいることが結構受け入れられているという気がしますね。

**三浦** 昨年の夏にやった北野国際まつりでは、延べ三万人ほど動員したのですが、ほとんど外人のボランティアで十一カ国三五〇人が参加したんです。大反響だったんですが、どうも外人の方も何かやりたいという気持ちをもっているのではないかと思いますね。自分たちのまつりとして楽しんでいる。それが非常にうまく行ったのではないかと思います。今年は七月二十三、二十四、二十五の三日間、北野天満宮でやる予定です。ただ今年は国鉄のキャンペーンもありますので、その前後に神戸外国倶楽部、インドクラブ、ファミリー北野坂ハウスでディナーパーティーなどの催しもやる予定になっています。

**植木** 北野国際まつりのようなガチャガチャしたものと高級なものを組み合わせて、観光客も地元の人人も楽しめるようなものが必要ですね。

**三浦** 北野はこれだけファッション化しているからトータルにとらえたファッションショーもやれますね。レストランやパレルなどを総合したファッションウィークのようなものをやればどうかと思っています。

**菊地** 今、国鉄の官舎を買い取って美術館にしようという話も出ているのですが、そういう核となるものがあってもいいのじゃないかと思えます。それと、ハード面になるのですが、もっと駐車場が欲しいですね。

**蔵本** 具体的なプログラムというよりも北野の町全体のレベルを今以上にアップして行けば、お客さんのレベルももっともって上って行くのじゃないか。いい意味での量から質への転換を今後にはかるためにはどうすればいいかを考えて行かないといけないと思いますね。

**菊地** 今後もっともって人が増えると思いますが、個々の店のポリシーを打ち出して行けば、それに見合ったお客さまがついて行くと思うんですね。

**飯田** 自分たちの店の行き方を分ってもらってお客さまについてもらうということですね。いい店がいい町をつくるということです。つづけて行ったらいいと思う。このまま維持して行く方が長つづきすると思いますね。

**大里** 自分のポリシーを維持しながらつづけて行くことが人を呼ぶ底力になるから私はもちろんその姿勢で仕事をして行きます。三浦さんがおっしゃったファッションウィークを一年に二回とか、ぜひともやりたいですね。

**大村** こういう時代ですから私たちの商売も夜遅くまで長くやるというよりも、早く開いて早く閉めるという方向に変って来ていますね。ですからうちの店としましてもできるだけ早く開けて昼間にゆっくりといたただくというのでやっております。それもファッショナブルなおしゃれな方にできるだけ来ていただきたい。そういうことでいろいろと考えて行きたいと思っています。

**山岸** 北野アレーとしてはこれまでにあまり何もやって来なかつたんです。今度、北野商業連合に参加して、北野アレーとしてできなかったことをいろいろとやって行きたいと思っています。

**武内** 今までは梯子段を一段半か二段ずつ上っていたのですが、このまま行ったらどこかで息切れがする。これからはワンステップずつというのが一番健全でしょうね。  
**東郷** 自分が楽しみながらやっていたら、その雰囲気がある人にも伝わって楽しい町になりますよ。

**若山** いろんなことを勉強して行かないといけないですね。その意味でも外部からのいろんなプレシンの参加によるシンポジウムのようなものをどんどんやって行って神戸論というか、北野町から神戸に適したロジックをみつけ出して、それを一つのテストケースとして神戸の他の方も勉強してもらおうということが出来ればいいなと思いますね。僕らはわりあい何もないところからスタートして、いろんな実験をやって来ていますので、ますます積極的に勉強をして行けば面白いことが出来るのじゃないかと思えます。

**三浦** これからは文化を町に匂わせて行くというか、どうすれば文化を人にアピールできるか、そこらへんを北野でもやらないといけないですね。しかし、基本はいい店づくり。これしかないと思います。(於北野ラインの館)

---

### 田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市中央区旗塚通 6-3-10  
TEL (078) 231-3321

---

### オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉  
神戸市中央区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

---

### カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三  
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807  
センタープラザ東館 8F  
TEL (078) 392-2101

---

### 株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市中央区三宮町1丁目10-1  
TEL (078) 332-3155

---

### モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

---





1924年の設立当時から使用されている日本ゴルフ協会のワッペン



ゴルフの前身  
コルペンのグ  
ブとボール



# 神戸に帰ってきたゴルフの西村コレクション 広野にJGA・ゴルフ・ミュージアム誕生 乾 豊彦(日本ゴルフ協会会長)氏の努力がいま実る

来る、5月21日(金)午前9時30分からJGAゴルフミュージアムの開館式が行われる。広野ゴルフ倶楽部のクラブハウスの近くに昨年4月に着工され竣工、開館の運びになったもので、このミュージアムには、ゴルフの文献の世界的な資料と呼ばれている西村コレクションも収められることになった。ゴルフミュージアムの設立を提唱し、実現に努力された乾豊彦氏(日本ゴルフ協会会長)にその歩みを話してもらった。

日本ゴルフミュージアムは日本ゴルフ協会が創立五五年記念事業の一環として広野ゴルフ場の一角に設立するもので、五月二六日から一般公開されます。かねてから日本のどこかに是非本格的なゴルフ博物館が必要だと考えて、前会長の石井光次郎、安西浩さんなどに進言してきましたが、三年前に会長に就任して理事会にはかかったところ賛意を得られ実現の運びとなりました。

日本ゴルフ協会に属する約千のクラブの各プレーヤー

から一年間、一回ゴルフをするたびに十円の献金をお願いして三億八千万の基金を集めることができたのですがどこにどんな資料があるかを調べるのが一番の問題点でした。幸いにゴルフの権威である摂津茂和さんを史料委員長に迎えることができ、二年間の歳月を費やして収集に努めた結果、まずまず現状では最高に近いものが集められたと自負しています。

集まった資料の中で特記すべきは、世界三大蔵書の一

つと言われる故西村貫一氏のコレクションで、洋書四四七冊、洋雑誌三〇〇冊(二種)、日本書九四冊、雑誌五三冊(六種)その他クラブ誌、コース紹介、カタログ類多数からなっており、史上最初のゴルフ書として有名なトマス・マシソンの詩篇「The Golf」一九二二年にオランダで出版された Jan Luiken のヘッド・コルベンの重要なエッチングを掲載した詩集など、珠玉の稀書を数多く揃えています。戦争中は空襲に備えて自庭の一隅にあった古井戸の中に愛蔵のゴルフ書をつるし、昭和二十年三月の大空襲で西村旅館は消失したにもかかわらず、コレクションは助かったというエピソードも残っています。今回、西村未亡人の特別なご好意で、この世界的なコレクションが日本ゴルフミュージアムの中に加えられることは、まことに意義深いことだと思えます。また、十五世紀ごろオランダで行なわれていた球技コ



広野ゴルフ場に建てられたJBAゴルフミュージアム

ルベンのクラブとボール、十九世紀のスコットランドの名匠による手づくりのロングノーズ(長いヘッドの総称)も世界的に稀な貴重品であり、中でもクラブづくりのストラディバリウスと呼ばれたセント・アンドルーズのロングノーズなどはゴルフ愛好家なら見逃せない逸品です。

牛や馬の革を丸く縫い合わせたなかに鷲鳥の綿毛を固くつめて作ったフェザーボール、一八四六年セント・アンドリュースの Paterson 兄弟によって発明されたゴム状樹脂製の芯なしのソリッド・ボールであるガッタ・パーチャ・ボール、一八九九年にアメリカ人 Coburn Has-kell により発明された初期のゴム糸芯捲きボールでハスケル・ボール、などの展示もゴルフ用品の変遷をうかがわせて興味ぶかい。

神戸にゆかりの深いコレクションでは、日本最初のゴ



写真/左は日本最初のゴルフコース、神戸ゴルフ倶楽部の創始者A・H・グルーム氏、上は同氏が使用したボール袋とボール







JGAゴルフミュージアム展示ルーム

ルフコース（神戸ゴルフ倶楽部）の創始者、A・H・グルームが使用したボール入れ袋とボールが残っている。袋はグルーム夫人の宮崎直子さん手製のもので、草花の模様の上に日英の国旗が刺繡されており、ボールは初期のアメリカのハスケル・ボールで神戸ゴルフ倶楽部の最初の競技においてグルーム氏が最初に打った記念の品です。

その他にも、篤志家の寄贈によりわが国のゴルフ界に活躍あるいは貢献のあった先人たちの記念品、遺品、ゴルフの発達を語る歴史的なクラブ、ボール、絵画、文献などを多数集めることができました。これまでも数多くの史料が戦災で消失したりして散逸しており、もう十年早く着手していたらという思いもありますが、画期的

な内容の展示品ばかりで、ようやく日本もゴルフの文化面でも先進国の仲間入りができました。

場所については当初、東京に置く考えで検討したのですが経費の問題もあり、一方、私が理事長をつとめている広野ゴルフ倶楽部が五十周年を迎えて記念行事に広野ゴルフミュージアムを独自に建設する計画があったことから、日本ゴルフ協会のたつての頼みで広野に持つてくることに決まったわけです。広野ゴルフ倶楽部のクラブハウスの横に作りましたので、デザイン的にマッチする建物を竹中工務店が一年がかりで設計施工しました。二階建の風格ある建築で延面積三七〇平米の規模です。大切なコレクションが神戸に帰ってきたというので、西村さんにも喜んでいただきました。

ゴルフミュージアムの開設に先だって、この貴重な収集品の数々を全国の人々に見ていただくことと昨年には各地で移動展示会を催しましたが、大変好評を頂くことができました。広野ゴルフ倶楽部の五十周年記念日である五月二十日に会員を集めて神戸ポートピアホテルで前夜祭、二一日の午前九時半開館式を行ない、いよいよ二六日より一般公開します。

史料の収集、基金づくりなどにこれまでご協力いただきました会員、ゴルフファー、遺族の皆様などに感謝申し上げます。と共、地元神戸の皆様がこの機会にぜひゴルフの歴史を直接にご覧いただければ幸いです。

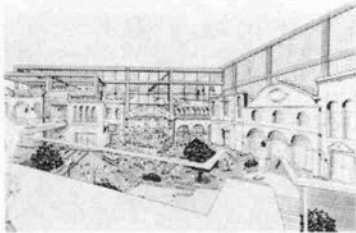


広野ゴルフ場にて乾豊彦さん

## 経済ポケット ジャーナル

### ★エキゾチックタウンは

五十九年オープン予定  
ポートアイランドに建設  
予定のシヨックピング街——  
エキゾチックタウンの運営  
主体となるダイエーからそ  
の基本計画が提出された。  
飲食、シヨッピング、レ



エキゾチックタウン完成予想図

に挟まれた市有地約一万五  
千平方メートルで、ダイエー案に  
よると、地上六階建てのビ  
ルを二棟建設し、一棟には



異国情緒豊かな飲食、専門  
店街やフランス風のスパー  
ー、もう一棟には多目的ホ  
ールやスポーツ施設を設け  
る予定。これらは一、二階  
に集中させ、三—六階部分  
は約千台収容できる駐車場  
とする計画。目玉となる西  
館一階南側の大型スーパー  
は、フランスに多い郊外型  
スーパー「ハイパーマーケ  
ット」風の店舗。また二階  
は家具やインテリア類を販  
売する「ホームワールド」  
が入る。

エキゾチックタウンにふ  
さわしい施設にするため、  
催し物広場の設置、建物自  
身も異人館イメージで統一  
などを考えている。事業費  
約八十億円。五十九年初め  
オープン予定で、初年度売  
上げ約七十億円を見込んで  
いる。

### ★西神工業団地

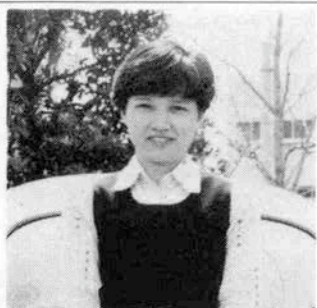
売れ行き好調  
西神工業団地の分譲が進  
められているが、六社二団

体の進出が決まり、計画面  
積の約九割が売約済となっ  
た。新規応募したのは、日  
本電気△本社、東京都、買取面積  
・約四万七千平米△、川崎重工  
業△同神戸市、九万六千平米△、  
ミサワホーム△同東京都、三万  
三千平米△、渡辺測器△同東京  
都、一万五千平米△、大和紙器  
器△同神戸市、一万平米△、の六  
社と、神戸機械金属団地△四  
万六千平米△、神戸食品団地  
△一万八千平米△の二協同組  
合。この結果、同団地への  
進出企業は総計九十六社と  
なった。

### ★ケミカルシューズ組合

新理事長に河野忠博氏  
日本ケミカルシューズ工  
業組合では、石井喜司雄理  
事長△神戸繊維社長△の退任  
に伴い、新理事長としてカ  
ワノ株式会社、河野忠博氏を

### ★KOBEOフェイスレディ★



立山陽子さん(24)

△三井ホーム勤務△

大好きな夏が近づき暑々  
としている水泳好きのお嬢  
さん。「もう少し落ちつか  
ない」と嘆きつつ、休日  
はほとんど愛車ワゴンで  
アベックで反省の日々が続  
く。「男性が多い職場なが  
で少しでも働きやすくして  
あげたい」と一言。ちょっ  
としないです。こんな  
いい女性は。



河野 忠博氏

選出した。  
石井氏は、同組合設立の  
発起人のひとりで、組合内  
部の結束を固めて不況対策  
や近代化を推進した功労者  
といわれているが、健康上  
の理由と、組合結成二十五

周年を機に人心を一新する  
必要があると辞意を表明し  
た。新理事長の河野氏は、  
その経営手腕を高く評価さ  
れており、若手のリーダー  
として業界をとりまとめる  
指導力も実証済みで、同組  
合の課題といわれている知  
識集約産業への転換に取り  
組むことが期待されている  
★神戸日野自動車(株)本社移転  
新住所/神戸市東灘区住吉浜町15  
新電話番号/81111111



●さわやかインタビュー

## 青少年の手づくりの劇場

山根 淑子さんを訪ねて…  
〈兵庫県立尼崎青少年創造劇場館長〉

阪急電車と国鉄の塚口駅から歩いて十分足らずのところに「ピッコロシアター」がある。正式名称は、兵庫県立尼崎青少年創造劇場。今月は、館長の山根淑子さんをお訪ねし、事業内容等についてお話を聞きました。

### CSR活動の阪神間の拠点

— 開館されて何年になるんですか。

山根 昭和五十三年八月十九日ですから、五年目ですね。

— “創造劇場”という名称は仲々ユニークですね。

山根 ええ、そうですね。公立の施設で、劇場という言葉を使ったのは全国でも初めてです。通称はピッコロシアターということで、子供さんにも親しまれています。名誉館長が坂井県知事さんなのですが、今、兵庫県が進めているCSR活動（勤労青少年に自由な創造活動を通して生き甲斐を持ってもらうための文化、スポーツ、レクリエーション活動）の阪神間の拠点なんです。

知事さんがおっしゃっていますのは、CSR活動に意欲を燃やしている青少年に、企画から建設、運営にいたるすべてに参画してもらう“手づくりの劇場”というこ

とですね。

— 具体的にはどういうところが他と違うのですか。

山根 まず、舞台スペースを客席の二倍も使っているということ。アマチュアの場合、観客はせいぜい百人、多くても二百人ほどしか集められない、だから、自分たちに使いやすい劇場は、客席が少なくてもいい、広い舞台が欲しい、という青少年のみなさんの意見をとり入れているわけです。だから大ホール四百人、中ホール二百人、小ホール百人の定員です。どれだけ青少年のために役立つのか、ということがまず考えられている。同じ予算なら結構大きなホールも造れたのですが、あくまで青少年のために役立つ施設を造るという知事さんの進んだ考えがあつてはじめて、全国どこにも類がない劇場ができたといえると思います。

あくまで使う人の身になった運営を

— 事業としてはどういうことをされているのですか。

山根 三つあります。まず、鑑賞劇場。一流の舞台の紹介です。神戸文化ホールと同じものを演ることは出来ま



この日、大ホールではチビっ子たちによる音楽教室の発表会が開かれていた。山根さんは常に劇場を利用する若者たちとの会話を大切にしている。いろいろな相談にも進んで応じる。

せんで、関西ではここで見られないものをやることにしています。もちろん内容がいいものです。苦労はあるのですが、他では見られないので、人気があります。二つ目は文化セミナー。これは青少年だけではなくて地域の文化的環境づくりを考えた教養講座です。歌舞伎の片岡孝夫、作家の水戸 勉、声楽家の樋口 栄といった一流の講師を招いています。無料ですが、これによって地域の方々はこの劇場となじんでもらえたのじゃないかと思っています。三番目に、これが一番大事な事業ですが、実技教室です。内容は、創造活動に直接役立つ講座で、照明・音響効果・舞台美術(装置)全てを毎週水曜日、三カ月にわたってレクチュアを中心とした基礎講座で修得する初級コースです。これによって裏方の仕事も出来ることになりました。四月から第四期を始めています。中級コースは基礎と実技の両方を半年間で勉強します。最

終的には一つの戯曲を完成するところまで行きます。この過程を通して連帯感が生まれ、苦労をのりこえた仲間意識が出ています。将来はこの劇場から新しいグループが生まれるのではないかと楽しみにしているんです。

——新しい企画はあるのでしょうか。

山根 今度、中ホールに合う能舞台が出来ましたので、夏に四日間、狂言教室をやります。若い人向きに衣裳をつけなくて気軽にやれる「ジーパン狂言教室」ですね。

それと、人形劇教室を七、八月に、また、オペラの公開リハールや青少年のための演劇講習会などもやっているんです。

——山根さんは、以前から劇場のお仕事をされて来られたそうですね。

山根 三十年間、民間で劇場の裏方をやって来ました。ですから公立の施設は使にくいという感じがあったんです。「すみません、貸して下さい」「よし、貸して下さい」というような(笑)とこがあります。時間にしても後片づけで少し遅れると追い立てられますし……。だから、私たちは、まず気分よく使っていただけということに気を使っています。後片づけが少しぐらい遅れたからといって電気を消して回ったり(笑)ということはやりません。利用者の立場になって気分よく使える雰囲気づくりいろいろな気を使っています。

——これからの抱負ということで話を締めくくらせていただきますか。

山根 こういう仕事は積み重ねが大切なので、新しい企画をどんどん言うことも出来ないのですが、五年サイクルで少しずつ新しいことをやって行きたいと思っています。「青少年自らが文化の創造を通して生き生きとしたよるこびを感じ、その中から友愛と勇気が育まれ、より明るく、より確かな人生の歩みが始まることを心から期待する」という知事さんのお考えに沿って、今後も青少年の活動を継続して手伝って行こうと思っています。

□兵庫県立尼崎青少年創造劇場

尼崎市南塚口町三丁目一七番八号 電話(〇六)四二六一九四〇